

2団体に社会公益賞

自殺防止とおもちゃ修理 文庫贈呈も



出席者の記念撮影

名古屋キワニスクラブ(会長=徳岡重信中京銀行会長)はこのほど、名古屋市中村区の名古屋マリオットアソシアホテルで「第52回社会公益賞」と「第47回キワニス文庫」の贈呈式を開いた。クラブ例会を兼ねた贈呈式には、会員や受賞団体の代表者ら70人が出席した。

名古屋キワニスクラブ

社会公益賞として「社会福祉法人愛知いのちの電話協会」(名古屋市東区)と「特定非営利活動法人刈谷おもちゃ病院」(刈谷市)に各50万円(総額100万円)の活動資金を贈呈。

キワニス文庫では、「大同病院」(名古屋市南区)と「春日井市民病院」(春日井市)の小児科、障害児入所施設の「名古屋市あけぼの学園」(名古屋市天白区)に絵本など60万円相当(各20万円)を贈呈した。

社会公益賞は、社会公益のために献身的な努力を続ける個人や団体の功績をたたえ、活動を支援する狙い

で創設。キワニス文庫は、病気療養中や児童養護施設などの子どもたちに、読書を通じて情操教育や心の癒しを届ける趣旨で、毎年、医療機関などの施設に児童



あいさつする徳岡会長

ロータリークラブ ライオンズクラブ キワニスクラブ

「社会公益賞」を受賞した
刈谷おもちゃ病院の三輪理事長



絵本など総額60万円相当の児童書を寄贈した

んでいるが、子どもたちを取り巻く諸問題はますます複雑化しており、従来にも増して奉仕活動の必要性が高まっている」と話した。

社会公益賞は、会員や地域の自治体から寄せられた情報とともに、会員アンケートなどを経て選考。コロナ禍中での自殺防止活動、子どもたちにものづくりへの関心、ものを大切にする気持ちを育てる活動に敬意を表した。

一方、キワニス文庫を寄贈された大同病院の水野美穂子こども総合医療センター長は、「コロナ禍で外出できず、テレビやゲーム漬けになり心を病む子が増え

書を贈っている。

贈呈式では、徳岡会長が「クラブ創設以来半世紀以上、子どもの福祉に取り組

みで活動は大幅に縮小したが、おもちゃ修理の依頼は例年の2倍になっている」と話した。

名古屋キワニスクラブは社会奉仕を目的に1966年に設立。会員数は143人。両事業をはじめ、子どもたちへの福祉向上や教育支援活動を続けている。

た。絵本で心を癒したいが、病院の予算ではなかなか購入できないのでありがたい」と感謝した。春日井市民病院の成瀬友彦院長も「本には人の生き方を決める力がある。小児科だけではなく病院中が喜んでいる」と語った。

また、刈谷おもちゃ病院の三輪恒雄理事長は「14年前にデンソーOBが自分たちの経験を生かした地域貢献として始めた。コロナ禍

田健一園長は「絵本は障害を持つ子も楽しめる。読み聞かせなどの情操教育にも活用したい」と話した。